攻ん事ハ君が御威光落さるゝに似たり。渠儕如きの小人ハ。御計ひ出て真實に降参すべく候。只管仁義を示させ給へと。数遍諫めまゐらせ。まづ軍勢を手分して諸所の城々を攻る事を見合せられけり。是ハ小分の国人等を聞怖させて麾下へ降参させん謀計なり。亦伍部の城々ハ関。八田。安濃津。細野の城。神戸。高岡。峯。鹿伏兎。国府等へ當向ふに其外五百騎三百騎或ハ千騎と遠近に野に山にも透間なく繋ぎて小隊伍を立ならべ。諸城一時にせめ起て忽地陥るを継に攻んせる然して村々の郷士らへ使をもつて利解を聞せ仁義を親く招がれけれバ千種宇野赤堀稲生の住士等ことごとく降参して本業名の本陣に参上し魁軍に加らんと望けれバ織田殿渠等を厚く歓待懇懃にせられける故国人のつきも感伏して聞に増る大将なりと次第に謂傳へ聞伝へて今ハ早降人七分を過ぎけれバ籠城殊に心なく。便宜もあらバと懼怖を懐き合戦すべき心ハなかりける

今江州根平村より千草越に出る千草杉谷の路明瞭にあり

所へ加治田稲田等木下殿の密意を兼て。其敵の陣中へ紛入流言して謂なしける。近江の佐々木六角殿信長に恃まれて加勢の軍兵を操出し。既に千種稲生辺まで出陣ありしと言觸しければ。この城々へも聞へけり。さしもがさめに將卒ども今ハ防禦の手当も伍部も怠り惘然として居られけれども織田殿の軍令厳しくして指揮なされバ何れの進軍も攻寄ることならざれバ遠巻してぞ睨合居諸所の城々も退屈しける体なるゆへ。木下御前に勤めまゐらせ。今こそ種々の計策を行ふ時節到来せし候。某に便宜を被りて山路弾正を説着のふさん居にハ御陣所を高岡に移されて。御威光を耀かさせ玉へと言上しけれバ尤是を許させ玉ふに木下ハ僅に従者を二人召具し。高岡城へ案内せり。然るに信長籠お二萬有余騎にて城の四方を取圍み。只今一擧に攻落さんと稜威を示し給ひてぞまじく。然れども城中更に屈せず必死と覚悟して待居たることこそ殊なれ。